

## 第二回「すこやかライフフォーラム」報告 2009.11.8



玉井文化庁長官のご挨拶

市民と共に考え、互いに支え合う安心社会をめざす活動をしている当サークルは昨秋、横浜青葉公会堂にて400名以上の参加者のもと第二回フォーラムを開催しました。今回は「人が人として成長する過程で口が心理面にどのような役割を果たしているか」その重要性を認識して頂きたい思いから企画しました。

当日、当サークル i の活動に関心をお寄せ頂いた玉井日出夫文化庁長官が出席され、ご挨拶を頂きました。

第一部の横浜動物園ズーラシア園長増井光子さんの「動物の子育てからその原点を考える」では、動物においても社会性を育てることが重要で、これなくしては繁殖や子育ては上手く行かないと力説されていました。スライドを映しながら数々のエピソードを披露されましたが、人間社会との共通点の多いことに驚かされました。

### 知られざる口のはたらき

第二部では尚絅学院大学教授の岩倉政城さんに「五感を介した乳幼児の発達」の講演をいただきました。赤ちゃんが生まれ最初の作業は泣いて呼吸すること、次はおっぱいに吸いつくことです。ここで赤ちゃんは約2000回の吸引動作を繰り返し、授乳とスキンシップによって最初の親子間の「信頼」が生まれます。この信頼は、胎生期につながっていた「へその緒」に代わり、親子の精神的「絆」の中心的役割となり、五感の発達をリードしながら、やがて交流や会話への意欲が芽生え、さらには社会性を身につけ、自立への重要な基盤となります。とかく口の持つ機能は、食物の入り口、発音器官としてだけ捉えがちですが、人が人として育って行く出発点であると言われ、岩倉さんの人間味あふれる講演に、聴衆は感銘を覚えながら聴き入っていました。



岩倉先生の熱演



口のトレーニングのために皆さんで吹き流しを

### 口を育てることの大切さ

最後に当サークル i の元開富士雄が「口からみた子供の身体とところの成長」を担当し、心理面だけでなく、社会との窓口になる生活機能の中心である口をいかに育てたら良いか、実際のトレーニングも含めて、形態と機能面の発達について講演しました。今まであまり注目されていなかった口の役割についての熱い語り、聴き入っていた母親や保育士ら参加者は「大変感銘を受けた」「もう少しこの話を早く聴きたかった」と口々に感想を残し、会場をあとにしました。